

調査の概要

1 実施の概要

調査目的	県内の小・中学校における学力の実態を把握・分析し、その結果をもとに、児童生徒の学力向上に総合的に取り組む。	
実施日	平成19年4月24日(火)、25日(水)	
調査対象校	市町村立小学校260校、中学校138校(小学校13校対象児童なし) 五ヶ瀬中等教育学校(前期課程) 宮崎大学教育文化学部附属小学校・中学校 (小学校約11644人、中学校約11120人)	
対象学年	小学校第5学年	国語, 社会, 算数, 理科, 意識調査
教科	中学校第2学年	国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 意識調査

2 学力調査の結果

小学校第5学年の平均到達度

教科		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)
平均到達度	国語	59.1	83.5	62.2	38.4	17.4
	社会	71.4	83.7	64.9	39.7	14.9
	算数	77.2	88.9	63.6	40.2	16.9
	理科	67.2	82.7	64.7	42.1	17.1

中学校第2学年の平均到達度

教科		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)
平均到達度	国語	81.0	88.8	65.4	40.7	14.4
	社会	58.6	83.7	62.5	39.0	18.7
	数学	66.6	88.1	64.2	38.4	14.8
	理科	65.4	85.1	62.2	38.2	16.9
	英語	71.3	88.3	62.9	39.7	19.4

* 到達度は児童生徒が正答, 準正答であった問題数の割合を表わし, 平均到達度はその平均となる。

* A層～D層は, 各教科の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け, 上位から順にA層～D層とした各層の平均到達度を表わしている。なお, A層～D層は, 意識調査と学力の関連を見るとき有効である。

小学校第5学年の地域別平均到達度

地域	宮崎	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	全県
国語	60.8	55.7	59.2	58.7	56.6	56.6	65.4	59.1
社会	72.6	70.9	70.4	70.0	70.1	70.1	75.0	71.4
算数	78.2	77.7	77.2	75.8	74.9	76.3	78.2	77.2
理科	67.3	66.4	67.7	66.2	66.2	66.8	71.9	67.2
計	278.9	270.7	274.5	270.7	267.8	269.8	290.5	274.9
平均	69.7	67.7	68.6	67.7	67.0	67.5	72.6	68.7

* 県内を教育事務所ごとに7地区に分け地域とした。

中学校第2学年の地域別平均到達度

地域	宮崎	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	全県
国語	82.4	78.6	80.7	78.6	80.6	79.7	82.9	81.0
社会	61.0	52.1	59.0	56.0	58.1	55.3	60.8	58.6
数学	69.8	60.4	66.1	62.5	64.2	64.0	67.1	66.6
理科	67.0	59.0	66.9	63.1	65.0	62.4	66.5	65.4
英語	75.8	65.1	67.8	67.5	69.6	69.0	74.5	71.3
計	356.0	315.2	340.5	327.7	337.5	330.4	351.8	342.9
平均	71.2	63.0	68.1	65.5	67.5	66.1	70.4	68.6

* 県内を教育事務所ごとに7地区に分け地域とした。

3 意識調査の結果

小学校第5学年の肯定的回答の割合

内容		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)	A層 - D層
肯定的回答の割合	授業に関すること	86.3	90.0	85.3	77.4	69.3	20.7
	学習に関すること	46.6	48.1	46.0	43.5	40.9	7.2
	生活に関すること	63.5	66.0	62.6	58.0	52.9	13.1

中学校第2学年の肯定的回答の割合

内容		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)	A層 - D層
肯定的回答の割合	授業に関すること	77.5	81.4	76.7	70.6	63.1	18.3
	学習に関すること	49.1	51.3	49.1	44.4	37.0	14.3
	生活に関すること	52.5	54.6	51.9	49.0	47.6	7.0

* A層～D層は、全教科(小学校4教科, 中学校5教科)の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け, 上位から順にA層～D層とした各層で肯定的回答をした児童生徒の人数の割合を表わしている。

* A層 - D層のポイントが大きいほど, 学力と関連がある。

4 分析の概要

学力に関する分析

小学校社会, 算数, 中学校国語, 数学はD層の指導の工夫が必要

教科全体の平均到達度に比べて, D層の平均到達度が低い教科は, 小学校社会, 算数, 中学校国語, 数学であった。これらの教科については, 特にD層の児童生徒の平均到達度の向上が課題であり, D層の児童生徒の指導の工夫が必要である。

地域の差は最大小学校5.6ポイント, 中学校8.2ポイント

全教科の平均到達度の最も高い地域と最も低い地域の差は, 小学校5.6ポイント, 中学校8.2ポイントで, 昨年度の小学校3.3ポイント, 中学校6.6ポイントと比べると小学校2.3ポイント, 中学校1.6ポイントといずれも差が大きくなっている。

意識に関する分析

小中学校ともに肯定的回答の割合が高いのは「授業に関する項目」

肯定的回答の割合の高い項目は、小中学校ともに「授業に関する項目」で、小学校 86.3%、中学校 77.5% で小学校が中学校よりも 8.8 ポイント高い。平成 18 年度の意識調査の同じ項目と比較しても、「好きな教科」の割合は、小学校で平均して 4.1 ポイント上がり、中学校で平均して 2.6 ポイント上がっている。また、「わかる教科」の割合は、小学校で平均して 4.8 ポイント上がり、中学校で平均して 6.9 ポイント上がっている。児童生徒ともに、「好きな教科」「わかる教科」のポイントが上がっており、児童生徒にとってわかりやすい授業が実践されたことも成果のひとつであると考えられる。

小中学校ともに肯定的回答の割合が低いのは「学習に関する項目」

肯定的回答の割合の低い項目は、小中学校ともに「学習に関する項目」で小学校が 46.6%、中学校 49.1% で小学校が中学校よりも 2.5 ポイント低い。学校や家庭を通しての学習の仕方や勉強の仕方などに関する指導が課題である。

小学校と中学校の差が大きいのは「生活に関する項目」

意識調査における各項目の肯定的回答の割合を小学校、中学校で比較すると最も差が大きいのは、「生活に関する項目」である。この項目は小学校 63.5%、中学校 52.5% で、その差は 11.0 ポイントと中学校で生活に関する否定的回答が多くなっている。特に中学校においては、家庭での生活の改善が課題である。

学力と意識の関係分析

学力との関連が深いのは、小中学校ともに「授業に関する項目」

A 層と D 層の差で学力と各項目の関連を分析すると、小学校の「授業に関する項目」が 20.7 ポイント、中学校の「授業に関する項目」が 18.3 ポイントといずれも他の項目より高い。A 層と D 層の差が大きいほど学力との関連が深いという統計結果から、授業が学力に及ぼす影響が強いといえる。「好きな教科」「わかる教科」の割合を増やすことが学力の向上につながる。児童生徒が教科を好きになるように、わかる授業の実践が今後も重要である。

小学校では「生活に関する項目」と学力に関連

A 層と D 層の差で各項目と学力の関連を分析すると、小学校の「生活に関する項目」が 13.1 ポイントと高い。小学校での学校以外の地域活動やスポーツ活動、習い事、施設を利用した文化活動、家の手伝いや家族との活動などの幅広い活動を積極的に行わせることも大切である。

中学校では「学習に関する項目」と学力に関連

A 層と D 層の差で各項目と学力の関連を分析すると、中学校の「学習に関する項目」が 14.3 ポイントと高い。わからないことを教師や友人に聞いたりしながら解決する姿勢や授業の予習・復習、宿題をしっかりと行う習慣を身に付けさせることが重要である。